SONY

3-209-636-**01**(1)

TA-DA5300ES 接続・設定ガイド

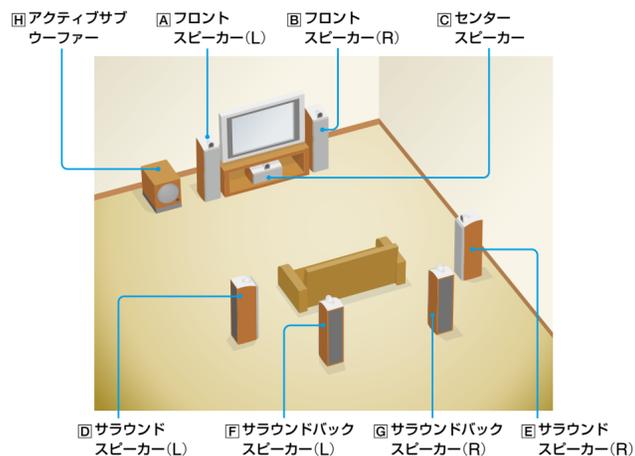
この接続・設定ガイドでは、スーパーオーディオCD/CDプレーヤー、DVDプレーヤー、ブルーレイディスクレコーダー、スピーカー、サブウーファーを接続して、マルチチャンネル音声を楽しむときのつなぎかたの例を説明しています。その他の機器のつなぎかたについて詳しくは、取扱説明書をご覧ください。

スピーカーを設置する
▼
スピーカー、他機と接続する
▼
接続の最後に電源コードをつなぐ
▼
自動音場補正機能を使って スピーカーを設定する
▼
他機の設定をする

スピーカーを設置する

下の図は7.1チャンネルスピーカーシステム（スピーカー7本とアクティブサブウーファー1本）の例です。詳しくは、取扱説明書の「準備1：スピーカーを設置する」をご覧ください。

7.1チャンネルスピーカーシステムの設置例

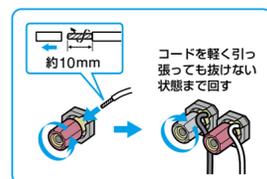
A～Hは右の欄の「スピーカーを接続する」のA～Hと対応しています。

スピーカーを接続する

お手持ちのスピーカーの数と種類に合わせて、必要なスピーカーを接続してください。

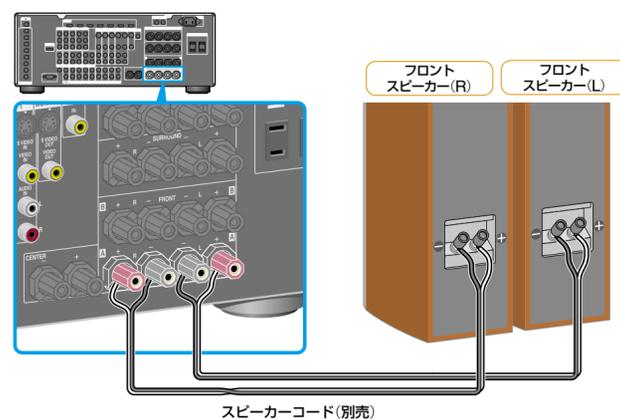
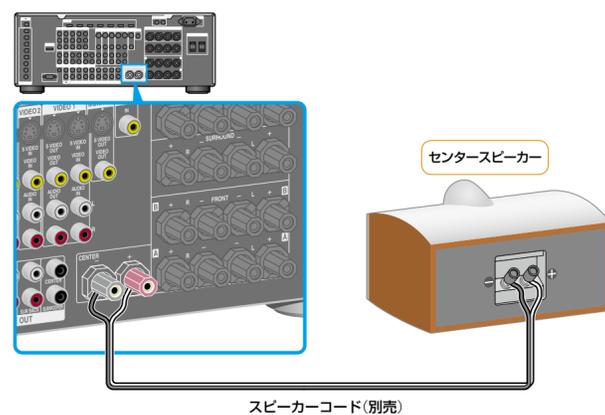
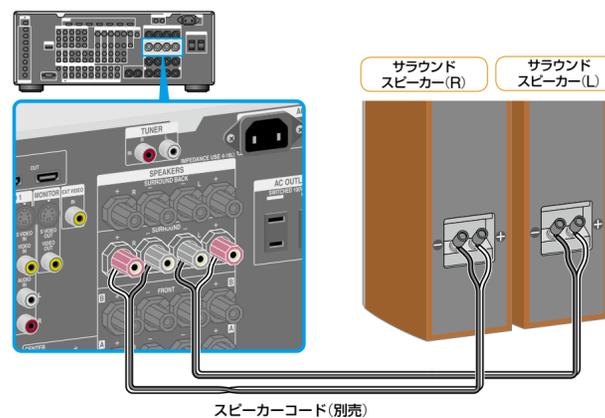
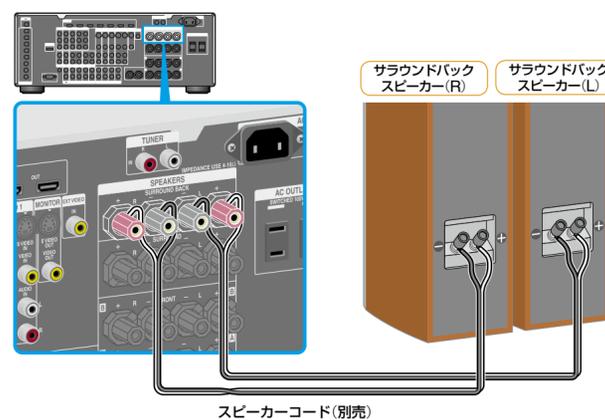
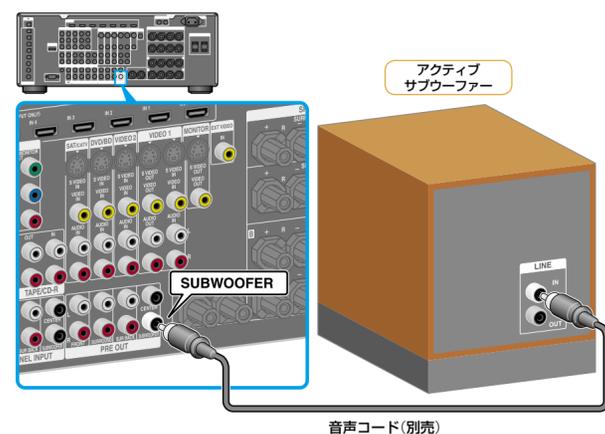
スピーカーコードについて

- スピーカーコードは部屋の広さに合わせて必要な長さのものをご用意ください。
- スピーカーコードはコードに文字、線などがある方を－（マイナス）側に接続するなどと決めておくと、＋と－を間違わずに接続できます。

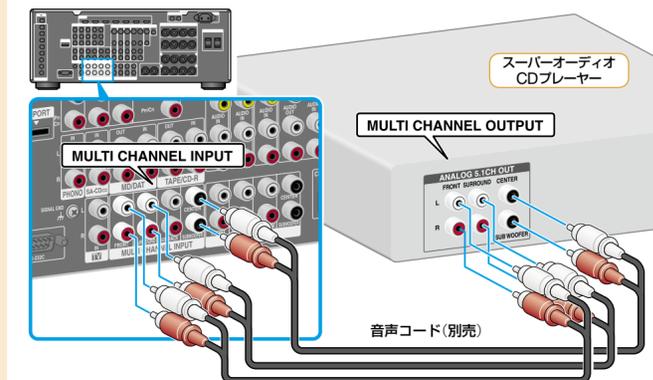
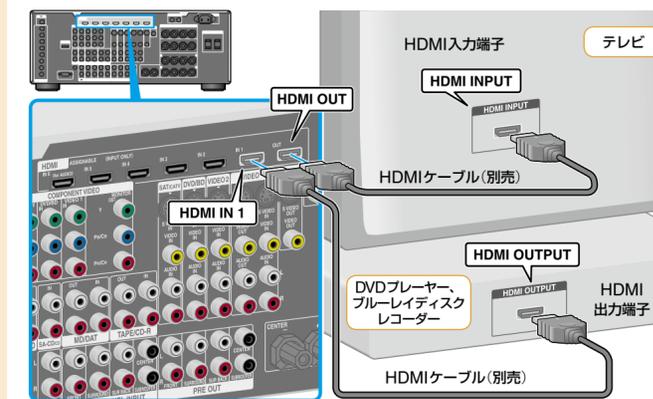
スピーカー端子について

- スピーカーの⊕端子はアンプの⊕端子に、⊖端子は⊖端子に接続してください。
- スピーカーコードの接続のしかたは、下のイラストや別紙のスピーカー接続のご注意をご覧ください。

SPEAKERSスイッチについて

使用するフロントスピーカーシステムを選べます。詳しくは、取扱説明書の「準備7：スピーカーを設定する」をご覧ください。

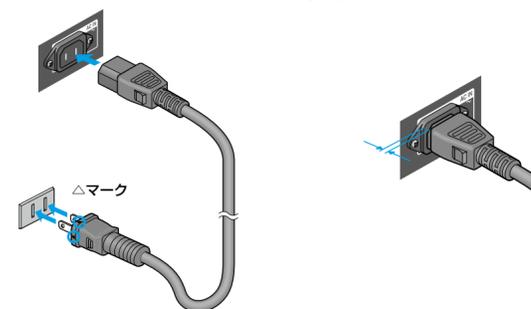
A B フロントスピーカー（L/R）

C センタースピーカー

D E サラウンドスピーカー（L/R）

F G サラウンドバックスピーカー（L/R）

H アクティブサブウーファー

他機と接続する

本機とお手持ちの機器のつなぎ方の例です。他の接続のしかたについては、取扱説明書の「接続と準備」の「準備4」をご覧ください。
本機には映像信号の変換機能があります。詳しくは、取扱説明書の「4b：映像機器を接続する」をご覧ください。

スーパーオーディオCDプレーヤー

映像機器

接続の最後に電源コードをつなぐ

すべての接続が終わってから、電源コードを接続してください。

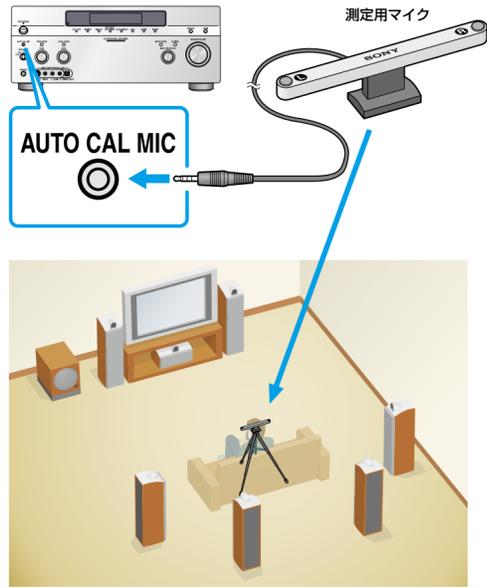
付属の電源コードを本機後面のAC IN（100 V）端子に接続し、電源コードのプラグを壁のコンセントに接続します。

本機後面に電源コードを奥まで差し込んでも、プラグと本機後面の間に数ミリの隙間ができますが、これで正しく接続されています。

ちょっと一言

付属の電源コードには、上の図のようにN極側に△マークがあります。これはよりよい音質にするために、壁のコンセントの差し込み口との極性を合わせるためです。壁のコンセントの差し込み口に長短がある場合は、長い穴がN極側です。

自動音場補正機能を使ってスピーカーを設定する

本機の「自動音場補正機能」を使って、リスニング環境に適したスピーカー設定を自動的に行います。

1 測定の準備をする

ご注意

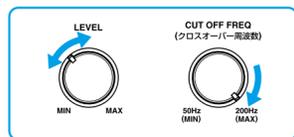
- 測定中は大きな測定音が出ます。音量は調整できません。お子様や隣近所への配慮をお願いします。
- 測定音以外の音が入らないように、静かな環境で測定してください。
- スピーカーとマイクの間に障害物があると正しく測定できません。測定開始前に機器の測定エリア（機器の設置エリア）の外側に出てください。

1 **スピーカーとテレビを設置・接続する。**
詳しくは、おもて面をご覧ください。

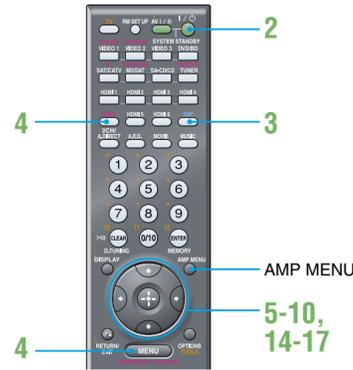
2 **測定用のマイク（付属）を本機前面のAUTO CAL MIC端子につなぐ。**
AUTO CAL MIC端子は付属の測定用マイク専用です。他のマイクはつながないでください。本機やマイクの故障の原因になります。

3 **マイクを設置する。**
マイクは実際に視聴する位置に設置します。耳と同じ高さになるように、台や三脚を使って固定してください。マイクのLをフロントスピーカーLに、マイクのRをフロントスピーカーRに合わせてください。

アクティブサブウーファーの設定について

- サブウーファーをつないでいる場合は、電源を入れて、音量を上げておいてください。音量はボリュームつまみを半分または半分よりやや小さめの位置にしてください。
- クロスオーバー周波数の設定機能がある場合は、最大に設定してください。
- オートオフ設定機能がある場合は、オフ（無効）にしてください。

ご注意

お使いになるサブウーファーの特性によっては、距離の設定値が実際の配置よりも遠くなることがあります。

2 測定する

測定項目： スピーカーの有無、スピーカーの極性、スピーカーの距離、スピーカーの角度、スピーカーのサイズ、スピーカーのレベル、周波数特性

1 **本機とテレビをつなぐ。**
詳しくは、本体取扱説明書の「準備3：テレビを接続する」をご覧ください。

2 **本機とテレビの電源を入れる。**

3 **AMPを押す。**
本機の操作ができるようになります。

4 **SHIFTを押して、MENUを押す。**
本機のメニューリストが表示されます。メニューリストが表示されない場合は、AMP MENUを押してください。

5 **⬆/⬇をくり返し押して、「設定」を選び、⊕または➡を押す。**
設定メニューのリストがテレビ画面に表示されます。

6 **⬆/⬇をくり返し押して、「Auto Calibration」を選び、⊕または➡を押す。**

7 **⬆/⬇をくり返し押して、「Quick Setup」を選び、⊕を押す。**

8 **⬆/⬇をくり返し押して、測定したくない項目を選び、⊕を押す。**
- スピーカーの距離
- スピーカーのレベル
- スピーカーの周波数特性

9 **➡を押す。**

10 **「開始」を選んで、⊕を押す。**

11 **5秒後に測定が開始される。**

12 **測定が始まる。**
測定時間は約30秒です。測定が終了するまでお待ちください。

13 **測定が完了する。**
測定が終わると終了音が鳴り、測定結果がテレビ画面に表示されます。

14 **「次へ」を選んで、⊕を押す。**

15 **⬅/➡をくり返し押して、「はい」を選び、⊕を押す。**

16 **⬆/⬇をくり返し押して、補正タイプを選び、➡を押す。**
測定結果が保存されます。

補正タイプ	説明
Full Flat	各スピーカーの周波数特性を平らにします。
Engineer	ソニー基準のリスニングルームの周波数
Front Reference	すべてのスピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に整えます。
OFF	自動音場補正のイコライザーをオフにします。

17 **⊕を押す。**
終了画面が表示されます。

警告が出たときは

手順14で警告を確認するメッセージがテレビ画面に表示され、警告を確認するかどうかを選べます。
「はい」を選んだときは、テレビ画面の指示に従ってください。
警告やエラーについては、本体取扱説明書「準備8：自動でスピーカーを設定する（自動音場補正機能）」の「自動音場補正後に表示されるメッセージの一覧」をご覧ください。

ご注意

サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーの高さ情報は測定できません。Speaker settings メニューの「位置」で設定してください。

ちょっと一言

スピーカーのサイズ（LARGE/SMALL）は低域特性で判定します。測定結果は測定用マイクの位置、スピーカーの位置、部屋の形などによって変わる場合があります。測定結果のまま使うことをおすすめしますが、Speaker settings メニューで設定を変更することもできます。変更する場合は、測定結果を保存してから変更してください。

他機の設定をする

本機につないだ機器を再生するときは、スピーカーから正しく音を出すために各機器側の設定も必要です。以下はソニー製機器の場合の設定方法です。各機器の設定方法について、詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。

ソニー製スーパーオーディオCDプレーヤー

必要に応じて適当な再生モード（マルチチャンネルか2チャンネル）を選んでください。2チャンネルを選んでいると、フロントスピーカー L/Rからしか音が出ないことがあります。

設定が終わったら

これで本機をお使いいただく準備ができました。
さらに詳しい操作については取扱説明書をお読みください。